



YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY

「ロータリーを實踐し みんなに豊かな人生を」
Engage Rotary Change Lives

2013-14年度 RI会長/ロンD.バートン RI.D2590ガバナー/市川緋佐磨 横浜旭RC会長/安藤公一

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-2 後藤ビル2F
TEL.045-365-3273
FAX.045-365-3132
Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp
〒241-0821

例会場 二俣川相鉄ライフ4Fコミュニティサロン
例会日 毎週水曜日/12時30分~1時30分



2013年10月23日 第2124回例会 VOL. 45 No. 16

- 司 会 副 SAA 市川 慎二
- 開会点鐘 会 長 安藤 公一
- 齊 唱 それでこそロータリー
S L 鈴木 茂之

■出席報告

| | | | |
|--------|-------|--------|------|
| 会 員 数 | 35 名 | 本日の出席数 | 27 名 |
| 本日の出席率 | 90.0% | 修正出席率 | 100% |

■本日の欠席者

漆原、斎藤、田川

■皆出席者表彰



後藤 英則会員 2年

■会長報告

台風 26 号が大島に与えた被害は想像を絶する大きなものでした。被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。また、今週末には 27 号、28 号が関東地方に迫って

きています。皆様お気をつけ下さい。

先週から様々な行事が続きました。17 日(木)の旭高校への職業人講話にご協力頂いた皆様、ご苦労様でした。18 日(金)の地区大会一日目には出席率第一位の表彰に際し、登壇し表彰状を頂きました。19 日(土)の本会議には多数の皆様のご出席頂き、ありがとうございました。五十嵐さんが作られた災害復興支援のパネルの出来も出色でした。そして、20 日(日)の旭ふれあい区民まつりにおいては、雨の中にもかかわらず 20 名近くの会員の皆様がお出で頂きお手伝いして頂きました。中心として活躍された関口さん、内田さん、五十嵐さん、お疲れ様でした。いや寒い一日でした。お風邪を召されなかったか心配でしたが、本日、皆様のお顔を見る限りでは大丈夫だったと安心した次第です。午後 1 時に早期の撤収となった後、午後 6 時からとなった打上会では鶴峰 RC も一緒に総勢 25 名以上もの盛大なものとなり、楽しい時間を過ごせました。幹事の佐藤真吾さんお疲れ様でした。今日は兵藤さんの卓話を頂けます。楽しみです。

○地区関係

1) 11 月 2 日(土)に交換留学生オリエンテーションが開催されますが、その際にカウンセラー、ホストファミリーの意見交換会も開催されます。後藤さん、漆原さん宜しくお願いします。

2) 11月15日(金)クラブ奉仕委員長会議が開催されます。新川さん宜しくお願いします。また、同日夜に会長幹事会が予定されていますので、会長幹事で出席して参ります。

3) 第5グループ各クラブからの交換留学生ホストクラブへの寄付は順調に集まっております。鶴峰RC、瀬谷RC、多摩RCの3クラブから入金されています。

○クラブ関係

1) R財団奨学生の希望者からの申込があり、先週の例会終了後に面接を行いました。

2) ラグビー早明戦(国立競技場)12月1日(日)14時を一緒に観にいきませんか?ご興味のある方は、今月中に安藤公一までご連絡下さい。バックスタンドA指定席¥2,500を押さえています。

3) 10月30日(水)の例会は休会となります。

4) 先程、会長挨拶でも申し上げた地区大会において出席率第一位の表彰状を市川ガバナーより頂きましたが、本来これを受け取るに相応しいのは、斉藤会長当時出席委員長をお勤め頂いた吉野さんだと思いますが、皆さんいかがでしょうか?では吉野さん前へお出でください。吉野さんのお蔭で出席率100%がこの2年以上続いています。クラブの強化に大きく貢献されました。次は増強の「増」の方も皆さん宜しくお願いします。

■出席率第1位表彰



■幹事報告

例会変更のお知らせ

○横浜南陵ロータリークラブ

日時 10月31日(木)定款により休会

○神奈川東ロータリークラブ

日時 11月29日(金)夜間例会

■東日本震災復興支援委員会 関口 友宏 区民まつり報告

旭区民まつりでは、雨天の中、多くの会員の皆さんにご参加を頂き、誠に有難うご座居ました。豪雨のため、10:30～15:00の予定が、13:00で中止となり、散々な結果になってしまいました。

しかし、あの雨の中、皆で協力し合えたことは、クラブ結束の証であり、決して無駄ではなかったと思っています。遠路、応援に来てくれた岩沼RCの渡邊幹事には、申し訳ない結果になってしまいました。

このような状況下でしたので、殆どが売れ残ってしまいました。恐縮ですがお帰りの接し、応分のご負担を頂きたく、お願いを申し上げる仕策です。



■旭高校職業人講話報告 佐藤 真吾

・開催日 10月17日(木)・対象 第1学年237名

・当クラブからの参加講師とテーマ

①兵藤 哲夫(兵藤動物病院)

「人と動物との関係」



②佐藤 真吾 (藤松産業株)
「宅地建物取引業について」



③松本 英二 (MCS 葬祭事業部セラポート)
「人のためにできること」



④小林 桂子 (特別養護老人ホーム旭ホーム)
「福祉の仕事と資格」



⑤長谷美加子 (アサヒペット株)
「タイプ別仕事人」



⑥中山 弘基 (増田法律事務所)
「弁護士という職業、働くことの意義、高校生へのメッセージ」



⑦市川 慎二 (希望ヶ丘幼稚園)
「社会人としての心構え、幼稚園の仕事である幼児教育とは」



⑧安原 盛行 (榊岡田屋)
「介護保険と福祉用具」



⑨新川 尚 (株ショウエイ)
「不動産業という仕事」



■ 5分間情報

矢田 昭一

私が入会したのは昭和 57 年 (1982 年) 11 月 10 日、55 歳のときです。

商大高校理事長の松本さんがスポンサーです。同時入会者の写真をご覧ください。時代推移が判ります。30 年前のクラブの雰囲気は今と同じで伝統と格式ありで紳士の集まりでした。



写真:中央 矢田会員 左 岡田会員

その中で不文律と云うか暗黙の了解事項がいくつかあり、皆これを守っていました。その一つは 5 分間情報の話題です。これはロータリーに関することに限られます。これには新米の私には参りました。そこでロータリーの友誌の中から話題になるものを見つけて話題にしてお茶をにぎしました。今のロータリー情報と大分違いますね。次は会員同士で仕事上の付き合いはあまり感心せず自粛する様にとの申し合わせ事項もありました。

現在はそんなこと云ってはいられません。その会社に十分な技術力とスタッフがしっかりしていれば大いに結構だと思います。共存の為にも 30 年も経つと私の考えも変わってきました。これも時勢の流れでしょうか。いいことです。

話はがらっと変わりますが、ロータリーの友の紹介は毎月ありますが、残念ながらクラブの活動については掲載されておられません、2000 年 11 月発行のロータリーの友誌に我がクラブの活動が掲載されておりますので、ご覧下さい。



*メダカの学校ができたという記事とこども自然公園のメダカの飼育池で談笑するメンバーの写真が友誌に掲載されました。

■ ニコニコ BOX (会員敬称略)

安藤 公一 / ①地区大会で出席率 1 位の表彰を頂きました。②旭区民まつりでは雨の中お疲れ様でした。③兵藤先生、卓話宜しくお願ひします。

福村 正 / ①兵藤先生、本日卓話宜しくお願ひします。②旭区民まつり、皆様お疲れ様でした。

吉野 寧訓 / 前期の山崎会長さん、青木幹事さん出席率第 1 位の表彰お目出とう御座居ます。当クラブが創立以来 43 年にして始めて 1 位の表彰をうけた事を心からお祝ひしたいと思ひますし、当クラブが一枚岩であることを欣びたいと思ひます。

増田嘉一郎 / 兵藤先生、卓話を楽しみにしています。

青木 邦弘 / ①兵藤先生、卓話本当に楽しみにしています。②安藤達雄さん、兵藤さん昨日はご苦労様でした。

鈴木 茂之 / 兵藤先生の卓話楽しみにしております。

兵藤 哲夫 / ①本日の卓話です。よろしくお願ひします。②太田さん、全国ペット協会会長として任期中、多大なる功績を残してくれました。本当にごくろうさまでした。

北澤 正浩 / 兵藤先生、卓話楽しみにしております。

佐藤 真吾 / ①旭ロータリークラブの出席率第 1 位を祝して。②旭ふれあい区民まつり、

皆様お疲れ様でした。③兵藤さん、卓話楽しみです。

安藤 達雄／①兵藤さん。昨日は松本良彦さんに名誉会員になって頂くためにご足労煩わし、ご苦労さまでした。受けて頂き良かったですね。②本日の卓話楽しみです。

吉原 則光／①地区から「祝長寿」をいただき有り難うございました。益々頑張るつもりです。②本日の卓話、兵藤さん楽しみです。

市川 慎二／①兵藤先生のお話、とても楽しみにしています。②区民まつり、雨の中お疲れ様でした。

岡田 清七／長寿のお祝いをいただき、健康でいられることに感謝です。

関口 友宏／旭区民まつりでは、雨天の中、皆さんご苦労さまでした。

内田 敏／①兵藤さん卓話楽しみにしています。②5分間情報、矢田さん楽しみです。

太田 勝典／①兵藤さん、卓話楽しみです。②千葉さん、名門の大洗カントリークラブでの理事長杯、決勝進出おめでとうございます。頂点をめざし、がんばって下さい。

■卓話「本・日・救・心」

○ドクトルヒョードーの悠々 ESSAY

兵藤 哲夫



日本と共に捕鯨を行うアイスランドからナガスクジラ肉の輸入が急増しています。価格が安く、輸入量は5年間で10倍にもなったそうですが、これに伴って捕鯨に反対する団体の動きが活発化し、日本に送る鯨肉の荷揚自粛を該当国の港湾当局に働きかけるなどの抗

議行動を行っているそうです。

ナガスクジラ肉をつかったペットフードを販売していた日本企業も海外からの抗議を受けて、取扱を中止にするまで追い詰められていまいというケースも出ています。

○日本が行う捕鯨

捕鯨について国際的に大きな発言力を持つ国際捕鯨委員会 (IWC) ですが、日本は1951年に条約加入しました。ニュースなどの印象ではIWCが日本の捕鯨に横やりを入れているかに伝えられていますが、クジラ資源の保護を図り、捕鯨業の適正化を目的とするために設立された国際機関であり、捕鯨を全面的に禁止していないのです。

現在日本は禁止されているナガスクジラの捕鯨はおこなっていませんが、小型のミンククジラについては「調査捕鯨」と称して獲っています。

調査捕鯨という語句が誤解を招きます。

調査のためになぜ鯨を殺さなければならないのでしょうか。じつは、水揚げした鯨を解剖しなければ、年齢、生態、生殖関係が判らないのです。私は調査捕鯨という行為はIWCの妥協の産物だと思っています。調査も必要ですが食文化も絶やしたくないということでしょう。因みに「調査捕鯨」という言葉ですが英語圏の報道では「SCIENTIFIC WHALING」と表記されているそうです。

南極海は鯨の保護区域で、日本がおこなう調査捕鯨はIWCの条約に則っています。過激な破壊行為で知られるシーシェパードのような団体には譲歩せず、断固闘わなければなりません。

○生命≠資源

海で獲れる食用の魚などを水産資源といますが、私は生き物を「資源」という言葉で一括りにする表現が大嫌いです。

大学でも「海の資源」といった学部名にするところもありますが、「生命」という一語で良いのです。資源という表現では生き物の痛みが感じられなくなってしまいます。

古来、日本人は捕鯨のみならず鯨について、

その大きさと、もたらされている豊饒な恵みに畏怖に近い思いを抱いてきました。日本全国の沿岸部にある鯨塚や鯨の魂を鎮撫するために建てられた鯨神社はその象徴でしょう。

「鯨に捨てる所無し」といいますが単に蛋白質を補給するだけでなく、鯨から過大な恵みを頂くことに感謝する心を受け継いできたのです。西洋人には未開国の野蛮なアニミズムとしか映らないかもしれませんが。

日本は自然を愛し、無益な殺生を禁じた優しい民族でした。江戸時代の川柳には「楊貴妃は綺麗な顔で豚を食い」と、肉食を揶揄するものもあります。ケモノを口にすることはケガレとして極力避け、魚や鳥を食べていました。「魚へん」が付くクジラは魚と認識していたのでしょう。食文化、伝統文化、神事などいろいろあるでしょうが、生き物を殺すこと痛めつけることをしないに越したことはありません。

○時代の変化、生命の価値

しかし、日本は戦争の名の下に自国や諸外国の人や動物、自然にも大きな損害を与えました。「国破れて山河」も心も失ったのです。今では全国どこのスーパーマーケットでも牛鶏豚など肉類が当たり前のように並び、フォードの工場を模した回転寿司に行けば大量の寿司が流れています。いずれも食べきれないものは破棄されます。いつの間にか、こんな食生活が当たり前になってしまいました。

今の日本は鯨肉に頼らなくても肉類は溢れています。かつては日本人の蛋白質摂取に貢献した鯨肉は食卓に上がることも無く、珍味の一つに成り下がり、諸外国から因縁の付けられる厄介なものになってしまいました。もちろん食文化として絶やすべきではないかもしれませんが、時代は変わったのです。

人類の発展は荒ぶる自然を意のままにコントロールしてきた残酷な歴史でもあります。有史以前から人は自然に対して無力でしたが、科学の発達と産業化によって人間が自然のバランスを崩し、様々な動植物の絶滅など、取り返しのつかない自然破壊が増えてきました。

生き物、食べ物、道具など「物」を大切にしていた時代から今や食べ放題、捨てる文化に溢れています。あまりに命を軽く扱っていませんか？

鯨だけでなく全ての生命に尊厳を持ちたいものです。

○世界平和、動物福祉に貢献を

鯨を絶滅寸前にまで追い込んだのは欧米人です。化石燃料が普及する前は鯨から取れる油を燃料としてランプの灯りにしていました。この膨大な需要のため鯨は乱獲されてしまいます。江戸時代、アメリカの黒船が日本に開国を迫ったのも遠洋漁業のための補給港にする目的があったのです。

どの国も自然からの恩恵を当然の権利の如く曲解し、自然破壊を繰り返しましたが、やっと自然の大切さに気づき反省の時期にきたのではないのでしょうか。娯楽や賭けの対象として牡牛と犬を戦わせた歴史を持つイギリスが、反省の下に世界の動物福祉に寄与しているのは良いことです。日本も様々な反省を含め、世界平和、動物福祉に貢献したいものです。

*ナガスクジラについて



体長 20-26M、体重 30-80T。体はスマートで細長く、体色と背面は濃いグレー、あるいは茶系の黒で腹部は白色。腹部から続く白色の模様が顎の右側まで回り込んでおり、色分けは左右非対称である。他の大型のクジラのように、20世紀の捕鯨による乱獲で、絶滅の危機にある種とされており、1976年から北太平洋と南半球で、1986年から全世界で捕獲が禁止されている。

■次週の卓話

ロータリー財団月間

新川会員

週報担当 内田 敏